

ヨコハマから未来へ。#2

～これからの多文化共生を考える～

横浜・山手に関東学院の源流となる横浜バプテスト神学校が創立されて今年で140年。

キリスト教に根差したグローバルな視点を交えつつ、多様性を認め合い、地域（ローカル）と共生して暮らし、学び、生きる、これからのあるべき持続的社會を考えていくため、関東学院大学では、この春、新たに開校した横浜・関内キャンパスにおいて、各界で活躍されている方を招いての公開討論会「ヨコハマから未来へ。～これからの多文化共生を考える～」を開催します。

ゲストスピーカーとしてお招きするのは、UNDP（国連開発計画）親善大使を務める女優の紺野美沙子氏。

なお、公開討論後には、世界で紛争が起こっている今だからこそ届けたいという思いから紺野氏の朗読「星は見ている～原爆でわが子を亡くした父母らの手記より～」をお届けします。



関東学院大学教授
富岡幸一郎



俳優・朗読座主宰
紺野美沙子



国際報道ジャーナリスト
ロドリゲ・マイヨール

UNDP 親善大使・紺野美沙子氏が来場

2023 10/6 金
開場 18:30 開演 19:00

会場：テンネー記念ホール 横浜市中区万代町 1-1-1 関東学院大学 横浜・関内キャンパス2階

入場無料



シンポジウム参加方法

参加ご希望の方は、QRコードよりご登録ください。

<https://univ.kanto-gakuin.ac.jp/news/symposium20230801.html>

主催

K G U

関東学院大学
KANTO GAKUIN UNIVERSITY

多様性を認め合い、地域（ローカル）と共生して暮らし、学び、生きる、 これからのあるべき持続的社會を考える

課題の発見、未来への希望 関東学院大学 学長 小山 巖也

第1回の関内キャンパスでのシンポジウムには、中国出身の芥川賞作家・楊逸（ヤン・イー）さんをゲストにむかえて、日本の社會が外国人をどのように受け入れているのか、今後の共生のあり方など将来へ向けての議論が活発に行われました。そして、今回は女優として活躍されながら、国連親善大使として世界を巡り、子どもたちの様々な課題に注目されている紺野美沙子さんをお招きします。「子どもの貧困」は途上國の問題だけではなく、經濟大国などといわれたこの國の深刻な現實です。それは教育の現場とも当然関わります。本學は今、課題は教室にではなく社會にこそある、というテーマを掲げています。この連続シンポジウムもその一環です。共に考え、語るために、多くの皆様のご来場をお待ちしています。



シンポジウム参加者略歴



ゲスト 紺野美沙子 俳優・朗読座主宰

1980年、慶應義塾大學在學中に、NHK連続テレビ小説「虹を織る」のヒロイン役で評判を呼ぶ。以来、テレビ、ラジオ、舞台など様々な分野で活躍。1998年にはUNDP親善大使に任命され、カンボジア、パレスチナほか、アジア、アフリカ各國を視察し、國際協力の分野で活動を続ける。2010年からは「朗読座」を主宰。元祖相撲女子（スー女）としても知られ、横綱審議委員も務める。



メインスピーカー 富岡幸一郎 関東学院大學教授

関東学院大學國際文化學部教授。研究テーマはキリスト教神學と日本の近現代文學・思想・宗教。内村鑑三、カール・バルト、戦後文學、川端康成、三島由紀夫らを題材として著作がある。1979年「意識の暗室 埴輪雄高と三島由紀夫」で、第22回群像新人文學賞評論部門を、21歳で受賞。そのキャリアを生かし、文藝評論家としても活躍する。鎌倉在住で、神奈川近代文學館理事。



メインスピーカー ロドリグ・マイヨール 國際報道ジャーナリスト

フランス・パリ出身。NHK勤務30年の番組ディレクター兼プロデューサーで、新ソルボンヌ大學コミュニケーションと情報學博士。ドキュメンタリー制作では、日本のマイノリティーにフォーカス、多様な日本を描く。ライフワークとして主に在留資格を持たない子どもたち、外國人労働者や入國管理制度の課題に焦点を当て、取材と研究を重ねている。

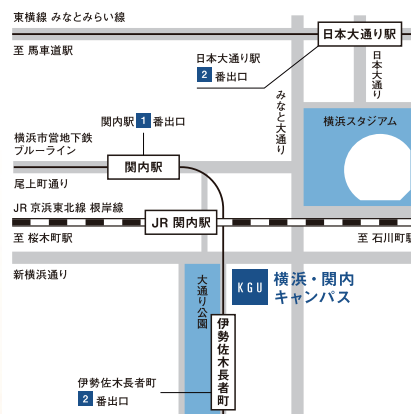


総合司会 北島美穂

FMヨコハマ毎週日曜日「Sunset Breeze」パーソナリティ



2023年6月23日
楊逸氏を迎えての初回シンポジウム



会場アクセス

JR・横浜市営地下鉄「関内駅」より徒歩2分
〒231-0031 横浜市中区万代町 1-1-1

お申込に関するお問合せ

関東学院大學 社會連携センター
Mail : relation@kanto-gakuin.ac.jp
Tel : 045-786-7744